

悲鳴を上げる介護現場

— 職員不足が深刻と予想 —

2025年度に介護職員が 全国で約38万人不足する

介護の現場は、「3K（きつい、危険、汚い）職場でありながら、給与が低い」との指摘もあり、現在でも人材の確保に苦慮しています。

大阪府の介護職員充足率は2025年になると84.5%まで大きく低下することが推測され、15歳～65歳の生産年齢人口はさらに減少していきます。日本の働く人口そのものが減少していくなかで、介護職員をどうやって確保していくのでしょうか。

景気が好転すれば、年々増加し続けてきた今の介護職員たちさえ、より高給を得られる他産業に流れていく恐れさえあります。そして一番の問題は、介護は仕事の難しさ、過酷さに比べて給料が思うように上がらないことです。

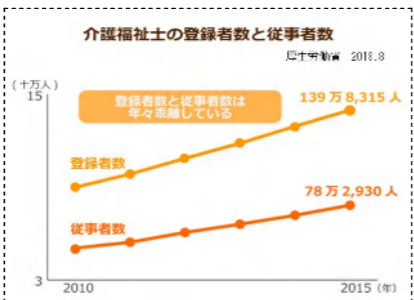
大阪は33,866人が 不足している

介護職員が不足している理由について、同業他社との人材獲得競争が厳しい56.9%、他産業に比べて、労働条件等が良くない55.9%、介護業界へ人材が集まらない44.5%であった。介護の仕事をしてい

る外国人労働者について、「いない」は91.4%、「いる」は5.4%



であった。また、「いる」5.4%のうち、外国人労働者を受け入れた経緯は、「日系人」が17.5%で最も高く、次いで「留学生、就学生」、「EPAによる受け入れ」の順であった。外国人がいる事業所のうち、「その他」58.6%には、日本人の配偶者が含まれている可能性が高い。国籍は「フィリピン」40.1%、「中国」15.3%、「ベトナム」12.2%で今後の活用予定については、「活用する予定はない」が80.1%、「活用する予定はある」



が15.9%であり、「活用する予定はある」と回答した事業所のうち、技能実習生としての受け入れを考えている割合が51.9%であった。

外国人労働者を今後活用する上での課題としては、「利用者等との会話等における意志疎通に支障がある」は58.9%、「日本語文章力・読解力の不足等により、介護記録の作成に支障がある」は54.1%、「日本人職員との会話等における意志疎通に支障がある」が46.5%であった。（介護労働安定センター調査）

重労働・低賃金の介護職員 若者離れも深刻

労働者の所定内賃金は平均で27,275円であり、これで若者が「介護業界で働くぞ!」と思うでしょうか？家族を養えるかも怪しい給料では誰も飛びつきません。他業種と比べて明らかな賃金の低さは否めません。また一方では事業所に支払われる介護報酬が引き下げられてしまったため、事業者に対する負担が重くなりました。

介護職員の賃金を上げようとする、介護保険の負担増という問題にも直面します。果たして10年後、253万人が必要とされている介護職員が確保され、さらには、介護の施設や事業所そのものが存続できているのか疑問です。2050年には1人の若者が1人の高齢者を支えなければならないとも予測されているなかで、次世代の若者は高齢者とのように向き合うべきなのか？社会全体でどのように高齢者を支えていくのか、検証と対策が求められています。

（執行部 陣内恒治）



発行 行
大阪市港区築港1-12-27
全日本港湾労働組合関西地方大阪支部
発行責任者 國分仁昭



1月12日～13日、ホテルライオン新大阪にて全港湾大阪支部2019年春闘討論集会が総勢75名の参加で行われました。

開会あいさつを山田副委員長がおこない、樋口委員長のあいさつに続き、来賓では関西地本より藤崎書記長のあいさつを受けました。小林書記長より19支部春闘方針の提案がされ、その後「次世代の育成について」というテーマでの分散会を開催しました。

分散会の趣旨説明では大阪支部の現状、特に組合員数の減少、その事による財政の圧迫等、さまざまな危機の認識を共有し、今後の大阪支部をどう強化すればいいのかが議論するよう促されました。

分散会は3班に分かれ、2班を一般層、もう1班に青年部層を集め、それぞれの班が熱い議論を交わしました。

夕刻からは、支部新春旗開きが開催され、青年部の港湾労働歌のコーラスを皮切りに、樋口委員長があいさつし、来賓よりそれぞれ

あいさつを頂きました。

催し物として川口真由美さんを招いて、熱い想いのこもった歌が披露されました。また、ビンゴ大会等大きく盛り上がりました。

2日目は港湾部会・車両部会より、事前に行われていた春闘討論集会の報告・提案が各事務局長からあり、生コンブロックでは松本執行委員より全日建連帯労組が弾圧を受けている事による経過と現状が報告されました。つづいて、前日に開催された分散会報告を各班より受け、春闘方針と合わせて全体討論に入りました。

さまざまな議論がされた事を踏まえ、執行委員会よりまとめの提案がされ、大阪支部2019年春闘方針が確立されました。

閉会のあいさつは陣内副委員長より「今春闘、日を決めた中で皆が一斉に旗を揚げ、腕章を巻くような、たたかう春闘にではなくてはいけない」との言葉もあり、最後の団結ガンパローは大変力強いもので締めくくりました。

今回の討論集会は、最初の趣旨説明の中で「危機感」というワードを強く出した形でしたが、大事なのは危機感を共有した上で組織強化に対し、個々が何をすればいいのを考え実践する事だと思えます。そのためにはそれぞれが意見を出し合い、それについて、いかに大衆路線での議論が繰り返され確立されるかが肝心な事です。

今年は大阪南港で開催されるG20や地方統一選挙・参議院選挙、また大阪府知事・市長のダブル選挙や消費税の増税が予想されます。

わたしたち労働者の取り巻く環境は決して平坦なものではありません。

賃上げと合わせて政治的諸課題にも正面から向かい合い、困難や圧力に屈する事なく、今まで以上の強固な気持ちと団結力を持って2019年春闘をたたかい抜きましょう！

（実行委員会 横山貴安基）

今年「選挙の年」 大衆の意見を政治に反映させよう！

亥年は選挙が多い年ともいわれています。

4月には統一地方選挙、7月には第25回参議院選挙が行われ、憲法発議と国民投票をめぐる正念場となっています。

止めよう！大阪都構想 させない！カジノ誘致

4月の統一地方選挙は生活に身近な問題が左右される大変重要な選挙です。大阪都構想の復活を目論む大阪維新の会は同じ会派の公明党の同意が得られない事を理由に大阪府知事と大阪市長を辞職して、統一地方選挙と同日に知事・市長選挙を行うと言っています。

近年、支持率が低下していた大阪維新の会は2025年の大阪万博誘致成功を自分たちの功績であると宣伝し、一気に躍進しようと目論んでいます。今選挙で歯止めをかけないと大阪都構想、カジノ誘致さえも押し進められてしまう大事な局面であることは間違いありません。

一方、国政では安倍首相が所信表明演説で憲法改悪について「憲法審査会で政党が具体的な改悪案を示すことで、国民の理解を深める努力を重ねていく」と述べ、自民党案をもとにした今国会での改

憲論議とその発議に強い執念を見せました。改憲に反対する人びとの関心は「9条への自衛隊明記」に集まっています。実際、9条が改悪されれば、集団的自衛権を際限なく認めることになりかねない



危険な憲法改悪となります。安倍首相はそればかりを口にしてきたので、良し悪しを含めて世論の注目を集めています。

マスコミ報道の少ない 反動政策に要注意

ところが、大災害や外国武力攻撃などの「緊急事態」を名目に内閣に強大な権力を付与するものとして激しい非難を巻き起こした「緊急事態条項創設」については、大きな話題が無く、動向に注意が必要です。

また、外国人労働者の受け入れ拡大に向けた出入国管理・難民認定法（入管法）改悪は、深刻な人手不足の即戦力となる優秀な外国人材に活躍してもらおうという口実

ですが、中身の議論が十分にされておらず外国人労働者を低賃金で働かせる「奴隷労働の拡大」であり、未は我々の賃金水準も下がる可能性があります。

その他にも、原発再稼働問題や国民生活の格差問題など、安倍政権の暴走は止まりません。

民意を連携・連帯し 本来の「主権在民」を！

2016年、共産党が当時の民主党・社民党・自由党に共闘を呼びかけスタートした野党共闘ですが、なかなか「本当の野党共闘」にはなっていません。各党任せでは、まとまることができずに自公政権の一強体制を崩すどころか、権力者と庶民の格差は広がり、本当に民主主義は崩壊してしまいます。

労働組合や地域・市民団体が連携して各、諸会議や支持政党、支持候補にしっかりと意見を言い、野党をまとめていく事が必要になってきています。

安倍政権の暴走を止めるため、また大阪維新の会の大阪つぶしに終止符を打つためには、推薦するすべての議員の当選を勝ち取る事が重要です。

そのためには、主権者としての意思を政治に反映させる機会であると捉え、組合員の積極的な行動が必要です。

(執行部 小林勝彦)

第10期沖縄意見広告キャラバン

意見広告を全国に広げよう

1月18日、エルおおさかにて「第10期沖縄意見広告運動」のスタート集会を、山城博治さんを迎えて行いました。「普天間即時閉鎖」「辺野古新基地建設やめろ」「海兵隊いらぬ」との想いから、沖縄意見広告運動は2010年3月に発起され、国内外の新聞各社への意見広告掲載を中心に様々な活動を行なっています。辺野古移設基地建設埋め立て廃止！を胸に全国に広くアピールすることを目的に大阪を出発し、19日にキャラバン隊は沖縄名護市辺野古に入り、浜のテントで安次富共同代表から辺野古の現状報告を受けました。その後2016年4月、当時20歳の結婚直前の女性が、米兵により乱暴をされ殺害、遺棄された恩納村安富祖の現場に行き、手を合わせて来ました。その後、辺野古の海に土砂投入のために作業している名護市安和区の琉球セメントの棧橋を見学・確認しましたが、この日は作業は行われませんでした。しかし、移動中にキャンプシュワブ米軍基地ゲート前に並ぶ民間警備員の姿を目の当たりにした時は、異様な光景に思いました。

20日、大浦湾の自然の美しさを感じとりながら、辺野古の埋め立て現場に目を移せば、昨年12月の土砂投入以来、現在の区域は開始1カ月で2割程度にあたる約6.3ヘクタ-

ル（1ヘクタール=10,000平米）が埋め立てられ、このまま進めば4月中には完成する見通しで、次に政府が土砂を投入する予定区域は、もう現在護岸の補修・点検作業中で、3月には土砂投入を始める可能性が危惧されます。政府は基地移設工事全体で、約160ヘクタールを埋め立てる計画で、両区域で投入を完成させれば、計画の4分の1を埋め立てる事になります。県側は即刻工事中止を求める姿勢を崩していませんが、埋め立ては着々と進み双方の溝は深まる一方です。

大浦湾の美しい海でグラスボートに乗り、希少なサンゴの生息や熱帯魚など生態系を見ました。代表的な青サンゴ群落やミドリイシ・巨大コブハマサンゴなど毎年のように新種が発表される大浦湾では、これまでに5千種以上の生き物が確認されています。まさにここは生物多様性のホットスポットで世界遺産にも匹敵するのです。このサンゴと生き物たちはこの大浦湾でしか生息できない大切な命で、他の場所では生きていけない貴重な宝でもあります。土砂を投入されることは、二度と戻らない自然豊かな地球の財産を減らすことだ知りました。

普天間基地を抱えオスプレイが飛び交う宜野湾市で、県民投票の実施を求めて、元山仁士郎さんがハンガー

ストライキ行動に入り、急遽キャラバン隊も激励に向かいました。元山さんはドクターストップで入院し、20日の日曜日に会えませんでした。現地でしっかりと若いメンバーが元山さんの活動を守り続けていることに感心しました。その後、高江の現場も視察して来ました。

21日は早朝に辺野古のテント2で船舶に乗船する人、カヌー隊が集まるミーティングに参加し、後にゲート前での抗議行動に参加しました。新基地建設断念まで1660日（当日）になる中、ゲート前で団結し、新基地建設反対の座り込みをおこなう有志の言葉を胸に阻止行動に参加しました。その後、嘉手納基地や普天間基地見学（嘉数の高台）し、対馬丸記念館では映像や資料で学びました。

22日の最終日は沖縄県南部の沖縄平和祈念公園・喜屋武岬・ひめゆりの塔を周り駆け足ではありましたが、全日程を無事に終えました。歴史を学ぶ貴重な体験ができ、ここで見たことは事実であり、沖縄の声と真実をこれからのキャラバン行動で全国へ伝え広めて行きます。県民投票の結果がどのようなになっても、すでに県知事選挙で沖縄の民意は示されています。

沖縄の過重な基地負担を減らす名目の下、新規に基地を建設するという理不尽を、政権は県民の民意を無視して力づくで推進あり、許すことはできません。安心して平和に暮らしたいと願う沖縄県民の声を全国に広げましょう。

(執行部 南野一樹)